

# 令和3年度 西陵中学校についてのアンケート結果 分析と今後の方針

アンケート実施時期: 令和3年12月初旬

## 1 教育目標実現に向けた努力

コロナ禍で様々な活動が制限される中で、生徒評価がコロナ禍以前の令和元年よりも10ポイント、昨年度よりも2ポイント上がる評価となりました。保護者にも9割以上から肯定的な評価を得ました。今後も学校づくりビジョンの見直しや実現に向けた努力を引き続き行い、様々な機会を通して取組の成果を生徒、保護者、地域へと、わかりやすく伝えていくように努力します。

## 2 充実した学校生活

生徒・保護者共に9割以上から肯定的な評価を得ました。特に保護者からは令和元年度よりも7ポイント、昨年度よりも3ポイント上回る評価となりました。生徒は充実した学校生活を送っていると感じて、保護者には生徒の様子から見て評価いただけたと考察します。引き続き、いじめや暴力のない学校、安心安全な学校づくりを目指すとともに、生徒の心の変化に寄り添いながら日常的な取り組みに加え、定期的な教育相談、スクールカウンセラーとの連携を適切かつ迅速に行い、課題の解決に取り組んでいこうと考えています。また、全生徒の視点や立場に立った仲間づくりにしっかりと取組み、一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう生徒に寄り添った教育活動を続けていきます。

## 3 わかる授業

昨年度に引き続き97%の生徒が「授業が分かりやすい」「授業改善や工夫がなされている」と答えました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のための休校期間があり、授業時間の確保や学習進度が心配されましたが、アンケートの結果を見るとコロナ禍前の令和元年度よりも5ポイント高い結果となりました。休校期間中のオンライン授業やYoutubeを活用した学び直しの機会を設けたことなどもこの評価につながっていると考察します。今年度から実施されている新学習指導要領に則り、ICTを活用した授業を工夫するなど、今後もさらなる努力を続けたいと考えます。

## 4 適切な評価

本年度より新学習指導要領が適用され、評価の観点および評価方法が変わりました。この状況の中で生徒97%・保護者85%から評価を得ています。これは各教科のシラバスを生徒および保護者に示し、評価の観点および評価の方法を明確にしていることがアンケート結果につながっていると考えます。これまでも定期テストや確認テストの点数だけではなく、毎時間の学習活動への参加状況や各単元における思考力や技能、表現力なども大切にして評価に取り組んでいますが、今後も教師が評価の過程に具体的な説明責任を果たし、生徒が一層意欲的に取組めるような授業の工夫と評価のあり方についてさらなる研修を深めていきます。

## 5 キャリア教育の推進

生徒は97%と例年と変わらず高い値を示しています。しかし、保護者は74%と全ての項目の中で最低の値を示し、コロナ禍以前の令和元年度から11ポイントの減少がみられました。コロナ禍で様々な体験活動が中止になったことに代わる魅力的な学習が提供できていないという指摘と捉えています。今年度も「PASカード」を使った診断や、社会で活躍されている方々からお話を聞かせていただく機会を持ちました。また、職場体験学習今年こそ実施したいと、期日を延期し検討しましたが本年度も実施できませんでした。子どもたちが自分の将来について関心を持ち、生き方について考える機会を今後も増やしていきたいと思えます。

## 6 道徳・人権教育の充実

生徒の97%から肯定的な評価を得ており、保護者からも微増ながら昨年度を上回る85%の評価となりました。今年度はタブレットを活用した授業の本格的な導入となり、「メディアリテラシー」に関する人権学習の必要性も高まっているため、外部講師も招聘したり、クラスで話し合いを持ったりすることができました。子どもたちにとって、身近でタイムリーな課題を話し合うことで、それらの問題を他人事ではなく自分事としてとらえられたと考えます。今後も、道徳の時間はもとよりすべての領域、教育活動において人権教育の充実を図り、仲間づくりに重点を置いた指導を心がけ、生徒や保護者にそのことが実感できるよう、対応していきたいと考えます。

## 7 仲間づくり

94%の生徒が学級の仲間や友達との関係がうまくいっていると回答しています。しかし、昨年度比で5ポイント下がった結果となっており、「友達との関係がうまくいっていない」と感じている生徒が増えているという事実をしっかりと受け止め、今後もすべての生徒に視点を当てた指導を心がけたいと思えます。逆に、保護者においては昨年度評価より5ポイント上がる評価となりました。コロナ禍において行事等での仲間づくりを行いにくい中ではありますが、教育相談に力を入れるとともに、生徒と生徒、また、生徒と教師が円滑な人間関係を築けるように指導を改善しながら、集団づくりを行っていきます。

## 8 危機管理体制

9割以上の生徒、保護者が安全に学校生活を送れていると感じています。休み時間の見守りや定期的な学校施設点検などの学校生活での安全はもちろん、登下校時の安全のため、教師による下校時の安全パトロールやPTAによる校外指導・挨拶運動を定期的実施しています。交通マナーが悪いとの指摘もありますが、交通安全推進校への指定もあり生徒会を中心に交通安全に関わる取組みを強化しています。また、防災面においても様々な角度からの避難訓練の実施と、安心・安全な学校を目指し取り組んでいます。今後も生徒の安全意識を高め、安全確保のための体制作りをめざしていきます。

## 9 生徒指導上の問題への対応

ここ数年の間、生徒の評価においては安定して肯定的意見が9割以上でした。しかし、保護者の評価においては3年連続で83%という数値であります。生徒指導については、問題の早期発見・早期解決をめざして共通認識を持って取り組むという原則のもと、全員が危機感を持って対応する、という思いで解決を図ってきました。教師は毎日の日記や休憩時間等を活用した生徒との会話を通してコミュニケーションや情報収集をはかってきました。今後も生徒が安心して学校生活を送れるように問題の早期発見・早期解決に努めるとともに、保護者との連携をとりながら、職員間の連絡を密にすることで組織的対応のできる体制づくりをめざします。

## 10 教育相談

令和元年度と比較し生徒が4ポイント、保護者が8ポイント上昇し教育相談の充実がはかられたと考察できます。毎学期の定期的な教育相談や生徒との日常的な関係づくりの中で、相談活動は定着してきています。教育相談の意義について職員全員が共通認識の下でこれまで積極的に取り組んできた成果であるように考えられます。又、担当より定期的に保護者に向け広報活動もなされスクールカウンセラーとの相談件数も増加しつつあります。今後も担任と保護者とカウンセラーとの連携を一層強化することで相談活動の充実をめざしていきます。

## 11 部活動の充実

生徒の評価では11ポイント下落しました。また、保護者の評価も8割を切る結果となりました。コロナ禍で活動に制限があったことや中体連の新人大会の中止なども要因と考えられます。また、部活選択の数が限られているため、本来の希望にそぐわない活動をしている生徒がいる現状もあります。生徒からは外部指導者を取り入れて欲しいという意見もありました。しかし、日常の活動する様子からは、熱心に活動している生徒の姿が見られます。学校運営協議会の委員の皆様からも部活動指導が持つ教育的意義や役割の重要性についてのご意見も頂きました。これらの指摘に対して真摯に受け止め、再度全職員がその意義を認識し、今後指導に当たっていきたくと考えます。

## 12 保護者・地域との連携

保護者からの肯定的な評価は前年度より若干の増加があり一定の評価を頂いたと考えています。また94%の生徒が、地域の人や外部講師による学習活動が役に立つと感じています。コロナ禍の為、一定の制限は設けましたが、教師以外の授業や学校外での活動を行ったり、保護者や地域の方に授業や行事を公開して、学校と保護者が生徒について話し合う機会を設けたりしていることが評価されていると思います。令和3年からはコミュニティスクールの指定も受け、地域との連携をさらに図っていく必要を感じています。

## 13 情報の発信・受信

生徒・保護者の評価は昨年度・今年と令和元年度と比べ共に10ポイント近く上がっており、中でも保護者からは14ポイント上昇の高評価を頂いています。紙媒体での配付以外にも、昨年度に引き続き一般公開できなかった体育祭・文化祭・中体連大会といった行事の配信や休校期間中のオンライン授業やYoutubeを活用した学び直しの機会を設けたことなどもこの評価につながっていると考察します。今後も、情報内容の充実とタイムリーな発行・発信、また生徒への学年通信等による働きかけを行い、学校と家庭・地域がつながる取組みを行っていきます。